

血管迷走神経反射 (VVR)

採血時に血管拡張による血圧低下と迷走神経の興奮による徐脈などを主症状とする反応。
特に採血終了直後に見られるが、採血の途中あるいは採血及び点滴終了・抜針後も出現する場合もある。

血管迷走神経反射(VVR)の判定基準

必須症状・所見がなければVVRとはいわない。

	必須症状・所見	他の症状
I 度	血圧低下、徐脈(>40/分)	顔面蒼白、冷汗悪心などの症状を伴うもの
II 度	I 度に加えて意識喪失、徐脈(≤40/分)、血圧低下(<90 Pa)	嘔吐
III 度	II 度に加えて痙攣、失禁	

厚生省血液研究事業 昭和59年度研究報告書集から引用

図 33 血管迷走神経反射 (VVR)

VVRへの対応

- 初期の段階で発見する。
- 直ちに採血を中止する。
- 頭部を下げて下肢を高くする。
- 低血圧が改善しない場合は、乳酸リンゲル液または生理食塩水の点滴静注する。
- 必要があれば硫酸アトロピン、塩酸エチレフリンなどを静注。

図 34 VVR への対応

- 1) 採血中は患者の様子に変化がないか常に観察する。
- 2) 血管迷走神経反射 (Vasovagal reaction ; VVR) は急速に進行することがあり、まれに心筋梗塞などの重篤な合併症との識別が困難な場合があるので、初期の段階で発見して対処することが重要である。(図 33, 34)

採血終了

抗凝固剤を含む採血バッグ風袋重量に所定の自己血採血量 (mL) × 1.05 (血液の比重) を加えた重量を採血する。

例) 採血量が400mL : 風袋重量(80g) + 400 × 1.05 (g)
= 500 g



図 35 採血終了時の採血量確認

採血終了

採血バッグ風袋重量に自己血採血量 (mL) × 1.05 (血液の比重) を加えた重量まで採血する (図 35)。